



小児はり 受診後の注意



* 一見さすっているだけに見えても、皮膚からの刺激が脳へ伝わり、体性 - 自律反射という反応により、体内では以下のような大変化が起きています。

自律神経の一つ「副交感神経」の働きが増し、免疫系統が活発化すお灸により血液（赤血球＋免疫の要「白血球」）が増えようとする。

体を休ませ、修復させようとする。

= ぼーっとする、ダラダラしたがる、眠くなる。



ごく自然な反応ですので、いつもより早く床に就かせ、睡眠時間を多くとるよう心掛けてください。

* まれに反応が強くと、発熱、下痢、じんましん、一時的な食欲不振などが見られることがあります、 半日～1日で回復します。

2日以上続く熱や下痢などの場合は、小児はりとは関係なく、潜伏していた病気が表面化したものでしょうから、念のため、別途病院への受診をおすすめします。

また、これらの副反応は、鍼の後なるべく静かに過ごして頂くことで防ぐことができます。特に初診時は、受診後に過度な運動や初めての場所へのお出かけ、夜更かしなどを避け、いつもより早めに床に就かせましょう。

* 食の細い子の場合、体を回復させようとする、食欲は後回しになる傾向があります。 食欲<睡眠 本来、飲食物を消化吸収するというのは、体力を使う、実は大変な作業です。病気の時や体調がすぐれない時に食欲が自然に落ちますが、これは、消化器官を休ませることで、体の回復を図ろうとするからです。小児はりの後も同じです。消化管に負担をかけぬよう、無理に食べさせず、睡眠優先で、翌朝自然に食欲が戻るのを待ちましよう。

おすすめ参考図書 : 山口創著 「脳はだっこで育つ」 廣濟堂 「子供の脳は肌にある」 光文社

佐々木正美著 「こどもへのまなざし」 福音館書店

大河原美以著 「ちゃんと泣ける子に育てよう」 河出書房新社

不安な点がございましたら、いつでも 下記までご連絡下さい



福里 真希

090-4708-2178 rakumi.info@gmail.com